

もちもち7月 おうちで見つける「ことばの育ち」

できる・できないを判定するためではなく、お子さんの「今ある力」と関わりのヒントを見つける資料です

この資料の使い方

- お子さんの発達には大きな個人差があります。年齢だけで比べたり、点数をつけたりする必要はありません。
- 「まだできていないこと」よりも、「最近こんなことをするようになった」「この遊びが好き」に目を向けてみましょう。
- この資料は発達検査・診断・スクリーニングではありません。心配が続くときは、園や専門機関に相談してください。

ことばの育ちを支える 5つの視点 - どれも、少しずつつながりながら育ちます -

視点	こんな姿が見られます	おうちでできること
A ことばの理解	呼びかけや簡単なことばの意味が分かる、絵や物とことばがつながる	お子さんが見ているものに「車だね」「赤いね」など短いことばを添える
B 伝えようとする力	指さし・視線・表情・声・身ぶりなどで「伝えたい」が表れる	どんな伝え方でも、まず「わかったよ」と受け止めてことばにして返す
C 声・ことばのまね	声を出して遊ぶ、音やことばをまねしようとする、家族に伝わることばがある	言わせようとせず、楽しい遊びの中で同じことばを自然に繰り返す
D お口周り・食べる力	食べる・飲む・噛む・舌や唇を使うなど、話すことにもつながる土台	姿勢を安定させ、無理のない食べ方を大切にする。おせ等があれば相談を
E 人への関心・遊び	好きな遊びがあり、大人と「楽しい」を共有する時間がある	お子さんの好きな遊びに入り、「見て」「できたね」「もう一回」を増やす

今日見つけた「お子さんのいいところ」

最近できるようになったこと： _____

好きな遊び・好きなもの： _____

よく伝えてくれる場面： _____



ことばを育てる 5つの関わりのコツ

1 子どもの興味に合わせる

大人が教えたいことより、お子さんが今見ている・触っている・楽しんでいることにことばを添えます。

2 短く、分かりやすく話す

長い説明より「電車だね」「速いね」「行っちゃったね」のように短いことばを繰り返します。

3 質問より「実況」を増やす

「これは何？」と聞き続けるより、「赤いね」「積んだね」と大人がことばのモデルを見せます。

4 子どものことばを少し広げる

「パン」→「パン、食べる」のように、お子さんのことばに少しだけ付け足して返します。

5 「言えた」より「伝わった」を喜ぶ

ことばがはっきりしなくても、指さし・声・表情を含めて「伝えようとした」ことを受け止めます。

気になるときは、相談して大丈夫です

相談は「問題があると決めること」ではありません。お子さんに合った関わり方や、安心できる見通しを一緒に考えるためのものです。

こんなときは早めにご相談ください

- 呼びかけへの反応や聞こえが気になる
- ことばや人とのやりとりが以前より減った
- 食べる・飲み込む・声の出し方が心配
- 強いかんしゃくや混乱が続き、親子ともにつらい

相談先の例

- 市町村の発達相談・子育て相談
- 園の先生・園のカウンセラー
- 小児科・耳鼻科
- 言語聴覚士・児童発達支援センターなど

ことばの育ちは、一人ひとり違います。

「早く言わせる」ことより、安心して伝えたいやるやりを増やすこと。

今日からできそうなことを、ひとつだけ選んでみましょう！

※本資料は保護者向けの一般的な情報提供資料です。個別の発達評価・診断を目的とするものではありません。

※本資料は、もちもち当日に使用した資料を HP 用に改編したものです。